

大会規定

- 1 試合はトーナメント方式とする。（第3位決定戦を実施する。）
- 2 試合は6イニング制。コールドゲームは3イニング以降10点差、5イニング以降7点差とする。
※ 決勝戦はコールドゲームを適用しない。
- 3 雨天時のコールドゲームは、5イニング終了時点で試合成立とする。
（ただし、後攻チームが勝っている場合は、5回表先攻チームの攻撃終了時点で試合成立。）
- 4 試合時間は90分とし、80分を超えた時点で次のイニングには入らない。
- 5 6イニング終了時、または80分を超えてイニングが終了した時点で同点の場合はタイブレーク制を採用する。
※ 攻撃は、0アウトランナー1、2塁から開始し、前イニングからの継続打順で、前イニングの最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁ランナーとする。
※ 1イニング終了時、得点が多いチームを勝者とし、勝敗が決しないときは最長2イニングまで実施する。
※ タイブレーク制で勝敗が決しないときには、抽選で勝者を決定する。（決勝戦は勝敗が決まるまでタイブレークを継続する。）
- 6 投手の投球制限については、1日70球以内とする。

試合中に規定投球数に達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

タイブレークになった場合、1日規定投球数以内で投球できる。

ボークにかかわらず投球したものは、投球数に数える。

牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。

投球数の管理は大会本部が管理する。

※大会本部への投球数の問い合わせは禁止する。
- 7 投球練習は初回5球、以降は3球とする。ただし、投手交代時は5球とする。
- 8 シートノックは当該チームの各試合日の1試合目のみ実施する。（大会初日はシートノックは行いません。）
- 9 キャッチャーは必ずファウルカップを着用し、試合前に審判員に提出し確認を受ける。
- 10 グラウンド内に控え選手が入るときには、必ずヘルメットを着用する。
- 11 試合球は公認J号ボールを使用する。（各チーム試合球を2個提出する。）
- 12 抗議は監督及び当該プレーヤーのみとする。
- 13 投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球し、また、捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板に触れて投球姿勢をとる。
- 14 攻守交代時はベンチを離れて速やかに守備につく等、試合のスピードアップに努める。
- 15 その他、野球ルールについては、公認野球規則及び全日本軟式野球連盟競技者必携・学童野球に関する事項により行う。